令和４年度 日本大学文理学部個人研究費　研究実績報告書

所属・資格　　国文学科・特任教授

申請者氏名　　梶川　信行

<table>
<tr><td colspan="2">研　究　課　題</td><td>上代文学の研究</td></tr>
<tr><td rowspan="3">報告の概要</td><td>研究目的および研究概要</td><td>ここ１０年ほどは、高等学校の国語の教科書の教材とされた『万葉集』に関する研究を中心に進めて来たが、その問題点の全容がほぼ見えて来たように思われる。そこで、その一端は上代文学会の機関誌『上代文学』などで報告した。
一方、『古事記』上巻の注釈も進めている。『万葉集』と『古事記』は同時代の書物であることもあって、『万葉集』の理解を深める上で、『古事記』の熟読することは欠かすことができない。『古事記』によって、『万葉集』研究の視野を広げることができる。また、上代の文化に対する理解を深めることにも繋がる。したがって、『万葉集』の研究を始めた院生の頃から、『古事記』の研究に対する目配りはして来たが、その研究ノートが蓄積されたことで、『古事記』の注釈を行なうための態勢が整って来た。
そこで平成３０年度から、鈴木雅裕氏（通信教育部助教）と協力し、『古事記』注釈を進めている。今年度も引き続き、『万葉集』研究の一方で、『古事記』の注釈を進めた。</td></tr>
<tr><td>研究の結果</td><td>高等学校の国語の教科書の『万葉集』に関する問題については、旧課程の教科書を対象として検討を進めて来たが、平成３０年３月に新しい学習指導要領が告示されたことで、新しい教育課程に対して、どのような課題があるかということに、方向性を変えて行かなければならない。その点については、担当している国語科教育法の授業における新たな教材開発などを通じて検討している。今後も引き続き、国語科教育法の授業の実践と論文の作成を平行して進めて行くつもりである。
また、『古事記』の注釈については、通信教育部助教の鈴木雅裕氏と共同で進めて行くつもりである。今年度も年２回の報告を行なったが、このペースが維持できたとしても、まだ１０年ほどかかる見込みである。引き続き、鈴木氏との議論を継続しつつ、注釈作業を行なって行きたいと思う。</td></tr>
<tr><td>研究の考察・反省</td><td>国語の教科書の「万葉集」については、平成２８年度に、上代文学会の研究叢書の一つとして「おかしいぞ！國語教科書』（笠間書院刊）という形で、多くの研究者の協力を得つつ公にしたが、その後、公にした論文も多い。今後は、それを改めて体系化しつつ、まとまった形にして行くことが課題となる。
また、『古事記』の注釈についても、上巻の注釈が完成した後にまとめるのではなく、ある程度の分量がまとまった段階で、逐次単行本の形で公にしたいと考えている。３分冊の形にするのが、本の大きさとしても読みやすいものになるのではないかと思われる。次年度は、そうした方向で準備を進めて行きたい。</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究発表
学会名
発表テーマ
年月日／場所

研究成果物
テーマ
誌名
巻・号
発行年月日
発行所・者</td><td>教室で読む古事記神話（十二）――草那芸之大刀から須賀須賀斯まで――（鈴木雅裕と共著）
『語文』（日本大学国文学会）173 輯　　1～18 頁　　令和４年６月

教室で読む古事記神話（十三）――故此大国主神から成麗壮夫而出遊行まで――
（鈴木雅裕と共著）
『語文』（日本大学国文学会）174 輯　　63～77 頁　　令和４年 12 月</td></tr>
</table>